

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス チャイルドウィッシュみらい		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 1日		～ 令和6年 12月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数) 24名
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 16日		～ 令和6年 12月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「土台型療育」「発達のパラミッド」の考え方を基礎とした子どもたちによりよい支援を行えるよう指導員間で話し合いや検討を重ね、指導員一人一人が療育のプロとして子どもたちに寄り添った支援を実施しています。またより質の高いサービスの提供ができるよう指導員も研修を受け支援力の向上を行っています。	毎月チャイルドグループでの定期的な研修を受け考え方や新しい知識の習得を行っています。また指導員間でアウトプットをする場面やロールプレイをするなどより専門的な支援ができるようにしています。	より幅広い知識や技術を習得していくため今後も学びの場に積極的に参加していきます。
2	職員一人一人がチームとしての意識を持ち、常に連携しあえる風通しの良い職場環境にするための環境づくりを行っています。支援前に職員が子どもになって遊ぶ時間を作ったり支援の中で楽しく関わる姿を見ていただきながら、個々の強みを生かした支援を行っています。	定期的な面談や昼食時のコミュニケーションを通して関係づくりを行っています。また普段の会話の中からお互いの強みやニーズを共有しあい、支援の中でお互いに助け合い高めあえるよう心がけています。	今後も意見を共有しあえる環境づくりをしながら、ミーティングを通して知識や技術の向上に取り組んでいきます。
3	同グループ内での事業所交流をし、子どもたちがより広く経験ができるような機会づくりをしています。また指導員同士が交換研修を行い、共通した視点や認識の支援ができるよう取り組んでいます。	毎月全事業所で支援ミーティングを行い、事例検討や意見交流をすることで統一した支援の実施ができるようにしています。交換研修の中でお互いの気づき等を共有し事業所の支援の質の向上に取り組んでいます。	今後も交流や研修の場を増やしていけるよう計画や相談を行っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	土曜や長期休み、早帰りの際に地域の公園やお買い物体験の機会を設けていますが地域での矯正を意識した支援の実施がすぐれない点です	子どもたちそれぞれの特性を考慮していくと地域の方を招いた大きなイベントが難しい状況であった	外部の施設(図書館等)への外出の機会を現状よりも多く企画し様々な人と関わる機会づくりをしていきます。
2	・事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定されている事や発生を想定した訓練を実施している事、みらい参観などについて保護者への情報の周知が不十分だった。	契約時にのみの周知、説明になっておりその後の情報の周知がしきれていないところがあった	各マニュアルやみらい参観等契約のみだけでなく、モニタリングや面談等の機会でも重ねて保護者様へお知らせしていきます。 安全配慮や感染症に対しても迅速な対応を行うための訓練を行っている事をおたよりで発信していく。
3	事業所設備の確認をしているが、保護者評価の結果を受けて改善方法を変更していく。	・子どもたちが身体を動かして遊ぶ中で施設内の壁などが剥がれたりしやすい。 それに対して物を大切にすることや自分で行ったことへの自己解決の練習として児童自身での補修を一緒に行ったり、速やかな対応や改善を心掛けている為簡易的な対処になっていた。(壁補修等)	・子どもたちが物を大切に作る気持ち作りとしての施設環境保持のために補修する材料の変更を行っていく。 (壁紙素材の導入) ・簡易的な対処になった場合には全体共有をして後日再度補修方法の検討をしていく。